

令和 4 年 6 月 12 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00350

研究課題名(和文)中国演劇・講唱文学資料総合データベースの構築と新しい中国芸能史研究の試み

研究課題名(英文) Construction of a comprehensive database of Chinese Classical Drama and Oral entertainment materials and an attempt to rebuild new Chinese entertainment history

研究代表者

上田 望 (UEDA, NOZOMU)

金沢大学・GS教育系・教授

研究者番号：90293331

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究課題「中国演劇・講唱文学資料総合データベースの構築と新しい中国芸能史研究の試み」は、中国の演劇、講唱文学に関する映像・写真・音楽・脚本のテキストデータという4種類の情報を統合するデータベースのプラットフォームを設計し、中国や日本国内で調査・資料収集を進めてデータを拡充しデータベースとして公開することを主たる目的としている。

2018年度からの4年間でコロナ禍の影響により初年度しか中国での調査を実施できなかったが、金沢大学および研究代表者が所蔵する各ジャンルの中国演劇・講唱文学の資料を整理し、金沢大学中国俗文学資料総合データベースを当初の計画通り一般公開することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的独自性は、日本が結節点となって断片化していた研究資料をひとつに集積・統合し、それを金沢大学からデータベースとして公開することで資料のアクセシビリティを確保し、誰でも電子資料を使えば演劇、講唱文学の研究が可能になる環境を作り出すという点に大きな学術的意義があると考えられる。また本研究によって先行研究の理論やモデルを再検証し、中国芸能史の空白を埋める創造的な研究になる可能性がある。さらに隣接する中国古典小説研究はもちろんのこと、地域社会や言語と結びつきが強い演劇、講唱文学の研究は歴史学、人類学、言語学などへの波及効果も期待できる。

研究成果の概要(英文)：The research theme "Construction of a comprehensive database of Chinese Classical Drama and Oral entertainment materials and an attempt to rebuild new Chinese entertainment history" integrates four types of information: video, photographs, music, and script text data related to Chinese Classical Drama and Oral Entertainment. The main purpose is to design a database platform and to expand the data and publish it as a database with research and data collection in China and Japan. In the four years from 2018, the survey could only be conducted in China in the first year due to the influence of the corona disaster, but the materials of Chinese Classical Drama and Oral entertainment of each genre held by Kanazawa University and the principal investigator were organized. The Kanazawa University Chinese Folk Literature Comprehensive Database was able to be opened to the public as originally planned.

研究分野：中国文学

キーワード：中国伝統演劇 講唱文学 データベース

1. 研究開始当初の背景

近年、中国大陸及び台湾では中国語文献や中国文化に関する巨大なデータベース、電子コーパスが構築され、学術研究の発展に大きく寄与している。しかしそうした学術研究のIT化の流れの中で大きく遅れを取っているのが、中国の演劇、講唱文学研究の分野である。中国古典一般や通俗小説などに比べ、電子情報の蓄積が進まない要因としては、中国には元明時代から今日に至るまで、各地で多様な演劇、講唱文学が継承されてきており、膨大な演目と脚本が存在する、小説研究などに比べて、中国、日本を問わず研究者が圧倒的に少ない、調査対象が中国各地や台湾、東南アジアに分散し、また大半は方言で演じられるために資料の収集や脚本の整理、電子化が難しい、などが挙げられる。

こうした中で、中国大陸では首都師範大学が音頭を取って「国学網」と呼ばれるサイトを立ち上げて電子データを集中的に蓄積しようという動きを見せ、また台湾では台湾中央研究院が「漢籍電子文献資料庫」を20年以上前から立ち上げ、「閩南語俗曲唱本「歌仔冊」全文資料庫」という画像・テキスト検索が可能なデータベースを公開している。一方、日本でも東京大学東洋文化研究所双紅堂文庫全文影像資料庫や早稲田大学古典籍総合データベースの「中国の民間信仰と庶民文芸」は、珍しい講唱文学の脚本の画像データを公開しており、また、公益財団法人東洋文庫に設置された田仲一成博士の「中国祭祀演劇関係写真資料データベース」「中国祭祀演劇関係動画」は、博士が中国大陸や香港・台湾・東南アジアなどで収集した中国演劇の写真と動画の非常に貴重なデータを公開している。しかしながら、中国、日本を見渡してみてもなぜか演劇、講唱文学の脚本のテキストデータや動画データは殆ど作成公開されておらず、一部のジャンルについて動画がネット上に散らばっているだけでデータベース化もされていないのが5年前の現状であった。

2. 研究の目的

研究代表者は、これまで20年以上にわたり主に中国大陸で演劇と講唱文学の上演を調査記録し、これらのジャンルの脚本を収集整理する研究に携わってきた。しかしながら現時点での演劇、講唱文学研究の水準では、各ジャンルや演目の関係性を客観的に闡明することは一部を除いて出来ていない。そこで本研究では、研究代表者がこれまで収集整理してきた演劇、講唱文学の映像・写真・音楽・脚本のテキストデータの4種類のデータを統合するデータベースのプラットフォームを設計し、さらに研究期間内に中国や日本国内で調査、資料収集を行ってデータを拡充しデータベースとして公開し、中国における演劇、講唱文学の成立と展開、伝播をジャンル・地域横断的な検索と分析を行うことで総合的に明らかにする。

3. 研究の方法

本研究の期間は4年とする。中国演劇・講唱文学資料総合データベースのプラットフォーム設計と公開、資料の収集、整理とデータベースの拡充、分析と考察、総括、の順に、データベースの構築、拡充の作業を進めていくとともに、2年目以降から中国の演劇、講唱文学がどのように成立し、伝播していったのかを明らかにするために、各ジャンル・演目の相違点や共通点をデータベースの利用を通じて発掘する。分析に際しては、自己組織化マップやPraatなど計量分析のツールや研究手法を用いてジャンル・演目ごとに脚本のテキストデータや音楽データを解析し、動画などの視覚情報とあわせて考察していく。

4. 研究成果

1年目となる2018年度は2019年2月と3月に台湾の台北、桃園、中国大陸の上海、蘇州、杭州などの各地域で民間信仰・祭祀儀礼や布袋戲などの地方劇の現地調査を実施し、収集した映像や画像の資料を整理して画像や文字情報の電子化を進め、「中国伝統芸能映像資料データベース」のコンテンツの拡充を図った。金沢大学総合基盤メディアセンター(当時)の協力をうけ、「宝巻」「江蘇南通童子戯」の脚本や上演資料の画像データを大学内のサーバーに蓄積した。またデータベースを利用した研究成果の一端を、金沢大学人文学類シンポジウムで西遊記物語の伝播について報告し、中国年文化高端論壇の招待講演で日本の祭祀儀礼、伝統芸能と結びつけて報告した。

2年目となる2019年度は、コロナウィルスの影響により中国各地での旧正月の現地調査と資料収集はできなかったが、すでに本学で収集済みの資料について、1)蘇州大学所蔵彈詞唱本(『描金鳳』、『珍珠塔』)同大学所蔵宝巻唱本(『繪図珍珠塔宝巻全集』『繪図玉蜻蜓宝巻』『白蛇宝巻』『趙五娘琵琶宝巻』『目蓮三世宝巻』)などの文字検索用テキストデータの作成、2)貴州安順地戲脚本(『三国』、『劉備過江招親回荊州』、『截江奪斗』、『小喬哭夫』、『関雲長過五関』)広東潮州歌冊(『劉備招親全歌』)浙江紹興文戲脚本(『合同紙』『血手印』『桂花亭』『百合台』)などの唱本について画像検索用のデータ化を行った。特に2019年度に整理した『三国志演義』関係の芸能のデータを利用して研究を行い、韓国小説学会に招待されてその成果を二度発表した。

3年目となる2020年度では、前年度に引き続き旧正月の現地調査と資料収集はできなかった

が、1) 金沢大学蔵『弾詞倭袍伝』(別名『果報録』) 8巻8冊の画像データの作成整理、2) 蘇州大学図書館蔵『姻縁宝巻』1巻、『延寿宝巻』1巻、『黄糠宝巻』1巻、『何文秀宝巻』1巻、『真修宝巻』1巻、『秦雪梅宝巻』1巻、紹興俞氏蔵『双英宝巻』、『双状元宝巻』、『沈香扇宝巻』の画像データの作成整理及び文字検索用テキストデータの作成、3) 貴州安順地戯『薛仁貴征東』12巻12冊の画像データの作成整理、4) 河北承德皮影戯『辞宋』7冊、『大金牌』6冊、『鎮冤塔』8冊、『劉仁掃北』6冊の画像データの作成整理、5) 江蘇如皋僮子戯『三界表全本』、『楊家将』、『玉帯記』、『羅通掃北全本』、『兄妹分裙』、『陳世美不認前妻』の画像データの作成整理及び文字検索用テキストデータの作成、をおこない、外部のサーバーをレンタルし試験的に一部を閲覧できるようにした。また金沢大学で購入した中国伝統演劇・芸能のDVD等の書誌情報を更新し、中国伝統演劇映像資料データベースのプラットフォームを全面的に改装して学内限定で閲覧できるようにした。2019年度に整理した『三国志演義』関係のデータや学会発表を踏まえ、日本中国学会からの依頼により『日本中国学会報』で論考を発表した。

最終年度にあたる2021年度は、1) 貴州安順地戯『啞巴告状』、『快嘴李翠蓮』、『後八仙図』、『三元記』、『説唱本三国』、『姜子牙下崑崙』、『薛仁貴征東』、『薛丁山征西』について画像データの作成整理、2) 河北承德皮影戯『乾坤剣』、『五鋒会』、『平西』などについて画像データの作成整理、3) 江蘇如皋僮子戯『魏九郎替父請神』、『珍珠塔』の文字検索用テキストデータの作成、『劉金定三下南唐上下集』、『三逼記』、『薛丁山征西』について画像データの作成整理、4) 金沢大学で購入した中国伝統演劇・芸能のDVD等の書誌情報を追加更新、という4項目を実施し、2018年度から進めてきた江蘇蘇州の弾詞・宝巻、浙江の紹興文戯、貴州安順地戯、河北承德皮影戯、江蘇如皋僮子戯などの画像データ、文字データ、動画データを中心とする個別のデータベースを統合した金沢大学中国俗文学資料総合データベース <https://www.kanazawachineselit.com/> を一部メンテナンス中の部分もあるが、当初の計画通り一般公開することができた。このデータベースをもとに、「データベースを活用した中国伝統演劇・芸能研究の可能性」(仮)と題する論考を2022年度の早い時期に同データベース上で利用の手引きとして公開する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 上田 望	4. 巻 1
2. 論文標題 茹志鵬「百合の花」を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 【新版】グローバル時代の文学（金沢大学GS教育系）	6. 最初と最後の頁 11-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上田 望	4. 巻 72
2. 論文標題 明治時代における『三国志演義』の翻譯と出版	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 104-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 上田 望
2. 発表標題 中国古代小説在現代日本
3. 学会等名 高麗大学校BK21Plus中日言語・文化教育・研究事業団海外学者招請講演会「新しい観点で眺めた中国古代小説と文化」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田 望
2. 発表標題 《三国志演義》在近代日本の傳播与接受
3. 学会等名 韓国中国小説学会創立30周年紀念国際學術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田 望
2. 発表標題 「日本の新年伝統儀式」
3. 学会等名 中国年文化高端論壇（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上田 望
2. 発表標題 「西天取经の旅は誰のため？ 『西遊記』の物語構造をめぐって」
3. 学会等名 平成30年度金沢大学人文学類シンポジウム「 旅 と文学」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

上田 望「金沢大学中国俗文学資料総合データベース」 https://www.kanazawachineselit.com/ 2021
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------